



ゆきちゃん通信

2004年9月25日

No.21

発行人 tomi

忘れたころにやって来る「ゆきちゃん通信」です。(笑) 早いもので由紀子も小学校6年生になりました。いろいろな行事に参加するたびにこれが小学校最後だと思って感慨にふけている母です。前回の通信から半年身体も気持ちも大きく成長した由紀子の様子をお伝えしたいと思います。

運動会

6月6日由紀子の小学校最後の運動会が開催されました。この小さなスペースには書ききれないほどのいろいろな思いがいっぱいの運動会になりました。

学級対抗リレーに組み体操。6年生の運動会は由紀子にとってはハードルの高い種目が多くありました。初めころは練習に参加することを拒否して泣いてしまい迷惑をかけてしまいました。クラスのお友達や先生方に支えられて最後は笑顔で運動会を迎えることができました。

リレーでは大きなハンディをもらって第一走者として走りました。次の走者にバトンを渡すときにはしっかりビリになってしまいました。クラスの子どもたちは「ゆきちゃんの分も頑張って1位2位を独占する」と宣言してその言葉通りワン・ツー・フィニッシュでゴールしてくれました。

組み体操ではなかなか練習に気が向かない由紀子のために写真の解説書を作ることにしたのですが、この時もクラスみんなが一つ一つの動作のモデルになって写真を撮ってくれました。担任のM田先生もその写真に合わせて由紀子にできるポーズを新たに創って、何度も一緒に練習をしてくださいました。どうかして由紀子を楽しく運動会に参加させようと皆さん頑張ってくれました。

そんな皆さんの思いが由紀子に通じないわけがありません。日に日に運動会の練習に積極的になって最後にはピラミッドの土台を立派にやり通すことができました。

この他にも運動会では由紀子は頑張りました。ここには書ききれませんが、詳細は由紀子のホームページの「事件簿」のコーナーにあります。よろしければご覧ください。

ホームページアドレス : <http://yukiko.pupu.jp/> 「ゆきちゃん通信」



「あなたが好き！」

1学期の終わりに交流学級の3組で道徳の授業参観がありました。「あなたが好き」という題で行われた授業で、4~5人の班に別れてひとりの子どもに班のみんなから「あなたの、〇〇が好き」という言葉を贈り、その言葉で詩を作ります。そして、その詩を班ごとに本人の前で発表をするのです。面と向かって「好き」といわれて子どもたちはみんな照れていましたがその姿がとても新鮮でした。

由紀子もお友達に言葉を贈り、そしていただきました。その言葉の中に

「自分と戦っているから好き」

という言葉がありました。

みんなの前でパニックを起こして自分の頭を叩いたり、泣いたりすることもある由紀子ですが、クラスのお友達はこんな風に受け止め、理解してくれているのかと思うと胸が熱くなりました。

何処に行っても由紀子はいつも優しい人たちに囲まれています。自閉症はつらいことも多いけどみんなに愛されて暮らしている由紀子はやっぱり幸せなんだと実感させてくれた授業参観でした。



修学旅行で行った遊園地では乗り物に乗るときに「お母さんも一緒にどうぞ!」と、係りの方に言われたと笑っていらつしやいました。それだけ二人の関係が和やかに見えると言うことでしょうか。(笑)

前任のK村先生が転勤されて新しく由紀子の担任になられたM田先生との学習風景です。初めて特殊学級の担任になられた先生には由紀子の障害を理解していただくのに大変ご苦労をおかけしました。新学期、担任の交代で私が戸惑っているときも、根気よく私の話を聞いてくださったことにも感謝しています。いつもゆっくり優しく由紀子に接していただきます。

六年生になって由紀子も身体の大きな変化を迎えましたが、その時の学校でのフォローは全て先生が引き受けてくれました。そして、そんな由紀子のために5組にカーテンを使った更衣室を作ってくださいました。女性ならではの心遣いにとっても感謝しています。

★キャンプ

小学校1年生の時からずっと参加してきた療育キャンプ。これも今年で最後になりました。去年のキャンプでは全てのプログラムに参加することを嫌がって泣いて、スタッフの皆さんに大変迷惑を掛けてしまいました。そして、キャンプの最終日にリーダーの先生から「去年まで指示されたことに素直に従ってきたゆきちちゃんが、今年は全て嫌だと言って拒否をしてみた。でも、結局は全部やらなければならなかった…この経験が来年どんな形になるか楽しみです」という、大きな宿題をいただきました。

その今年のキャンプ…出発の前日まで由紀子は「行かない!!」と、言い張っていましたが、「最後のキャンプだから!」「権現山登りは今年で終わりだから!」という私の説得に最後は自分で行くことを決めました。もちろん山登りもやると決めました。さあ…どんなキャンプになったのでしょうか!!

2日目が問題の権現山登りです。6年生は5キロを歩きます。由紀子はよほど気になっていたのでしょうか、朝目覚めた瞬間に「権現山は今年で最後よ!」と大きな声で叫びました。そして出発の瞬間までため息の連続です。(笑)そんな由紀子の気持ちを奮い起こそうとリーダーの先生は出発前にみんなの前で“権現山がんばるぞ!”コールを由紀子にやらせてくれました。

そして出発の時、去年は泣きながらみんなに抱えられてバスに乗り込んだ由紀子が今年はまっすぐ前を向いて元気に歩いていきました。途中で何度も自分の頭を叩いたようですが、最後まで弱音は吐かなかったそうです。そして、担当スタッフのY田さんに励まされながらついに最後まで歩き通しました。写真はゴールの瞬間です。



この後、ホテルに戻ってきた時の由紀子の顔が忘れられません。充実感に満ちた笑顔で、出発前とは別人のようでした。今まで促されて仕方なく登っていた権現山でした。でも、今年は自分で決めて最後まで登りきった権現山です。この時に感じた達成感こそが本物なのだと思う笑顔でした。もちろん他のプログラムもばっちりです。最後の年少キャンプは母子ともにいい思い出をいただいて卒業することができました。

← 今年の担当のY田さんです。教育学部の学生さんです。由紀子のがんばりはY田さんのサポートのお陰でした。2泊3日の間に二人の関係がどのように育ったかは、この写真の笑顔を見ればわかりますよね。由紀子が楽しいときも、辛いとき

もいつもこの素敵な笑顔で寄り添ってくれたY田さん。ありがとうございました。Y田さんとは今でも教育相談に伺う養護学校で時々会うことができます。また一人、由紀子の理解者が増えたぞ!と、喜んでいる母です。

編集後記

修学旅行から帰って三日目の事です。音楽のレッスンに行っていた由紀子がちょっとしたきっかけでパニックを起こしました。その時に「一人で寝るんだよ!我慢をするんだよ!」と言って泣いたそうです。何事もなく過ごしてきた修学旅行でした。帰宅してからもそんな事を口にする事もなく普段と変わりなく過ごしていたのに、由紀子が胸の中にこんな思いを抱えていた事をはじめで知りました。

6年生になって背が伸びて体型も変わり大人への階段を登り始めている事を感じさせてくれるこの頃です。そして、キャンプの時のようにいろいろな事を自分で決めて頑張れるようにもなりました。そんな由紀子にたくましさを感じる母です。でも、まだまだ心の中では葛藤が続いていることも確かです。

こんな時私はどうすればいいのでしょうか?それは…。がんばる由紀子の背中を見守ってやる事。そして、心細くなって振り向いたときに笑顔でその気持ちを受け止めてやる事…。そんな事しかできないのかもしれませんが。見守る事のむずかしさ、寂しさを感じながら母もまた葛藤の日々が始まっています。

tomi



の睡眠不足のせいで眠気に襲われて…でも眠りたくなくて…睡魔と闘っている姿が可愛かったと先生が話してくれました。

楽しかった 修学旅行

9月には修学旅行に行きました。熊本の阿蘇で一泊二日です。楽しみにしていた由紀子は数日前から興奮気味で夜も眠れないほどでした。当日も「大きなバスで行くよ!トロッコ列車に乗るよ!」とニコニコ笑顔で出かけていきました。阿蘇では嫌いな牛にもえさをやり、お友達が乳絞りをするとこを傍で見ることができました。そして、楽しみにしていたトロッコ列車では連日

その日の夜、お風呂も寝るときもみんなに助けてもらいながら楽しく過ごしたようです。

翌日は三井グリーンランド。怖がりの由紀子には乗れないものいっぱいですが、M田先生が由紀子にも乗れそうな遊具を見つけて一緒に乗ってくださいました。

由紀子がいけない間、あれこれと心配していた母ですが、この写真の笑顔を見たらそんな必要はなかったことを思い知るのでした。